

都道府県番号	5
都道府県名	秋 田 県

学校名及び規模

六郷町立六郷中学校						
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	2	3	1	9	2 2
生徒数	7 5	7 6	8 5	1	2 3 7	

研究の概要

(1) 研究主題

自ら学びを楽しみ，自ら学びを深める生徒の育成
～ 評価を生かした個に応じた指導の工夫を通して～

(2) 研究主題設定の趣旨

本校教育目標の中の「優れた知性」及び学習指導要領で目指す生きる力の中の「確かな学力」に注目して学びの姿を分析し，生徒の実態を次のようにとらえた。

- ・ 素直な生徒が多く，一生懸命に学習に取り組むことができる
- ・ 決まった課題に非常に意欲的に取り組むことができる
- ・ 自分で課題を設定したり，自力で工夫して学んだりすることが苦手である
- ・ 自分で見通しを立てて学習課題について深く追究することが苦手である

この生徒たちに，教科等の基礎・基本の確実に定着させるためには，自ら学びを楽しんだり深めたりすることができる資質・能力を育む必要があり，このことが，「確かな学力」につながると考えるからである。

また，これらの資質・能力を育むためには，個に応じた指導をする際，評価規準をもとにした授業構築と，評価結果をもとにした授業の再構築が必要であると考え，上記の副主題を設定した。

研究の概要

(1) 研究推進体制の工夫

校内における体制

教務主任，研究主任，少人数授業実施教科代表等の5人による組織（フロンティア5）を設けた。この5人が分担して「評価研究部」「教材開発部」「指導形態改善部」の担当となり，全体研修会への提案を行っている。

研究同人組織の確立

規模の大きな学校ではないため，各教科部員数は少ない。部員数1人という教科も複数ある。そのため，他校より研究同人を募り，評価規準の検討，授業研究などを，12校24人で共同で行っている。

(2) 研究の実際

「評価を生かす」ことについての共通理解

指導と評価の一体化を図るために，「評価を生かす」には次の二つの側面があることを共通理解し，実践している。

評価は，授業改善のために

	評価規準をもとにした授業の構築	つまずきを予測	
ア	「ねらい」に対して規準は適切か		熟慮して 授業に臨む
イ	どんな教材を使ってどんな学習活動をするべきか		
ウ	それに必要な学習形態は何か		
エ	どの場面でどんな観点で評価するのか		
オ	具体的には学習活動におけるどんな姿で評価するのか		
カ	どんなつまずきが予測されるか		
キ	その状況に対してどんな手だてを講じるのか		
例】	数学科 1年「平面図形」の授業より		
ねらい	基本的な図形の作図と線対称の考えを，問題解決に利用させる。		
学習活動	A地点から花壇へ花を摘みに行き，B地点まで行く最短コースを考える。		
学習形態	異質グループ・1C2T		

評価場面	提示された課題をノートに表現する場面 (ノート・シート) 図を見て考える場面 (作業・観察) 定規とコンパスで作図する場面 (作業)
評価規準	その図を対称性の観点から見ようとしている。 (数学的な見方や考え方) 基本的な作図を利用して問題を解決することができる。 (表現・処理)
努力を要する状況に対する手だて	課題を図に表現できない生徒に あらかじめ用意しておいたシートを 与え、考えを助ける 解決の見通しをもてない生徒に メジャー等で花壇を実測させる 対称性に着目できない生徒に これまでの学習内容を想起させる イメージができて作図できない生徒に 作図の基本を再確認させる
評価結果を生かした授業の再構築	つまずきへの手だて ア Cと判断した生徒に対して、次の時間、次の単元で、 どう手だてを講じるか イ 単元構成・教材・学習活動・学習形態は適切だったか
評価は、励ましのために	反省を生かして次へ臨む
	日々のワークシートや学習カードへの励まし よいものを全体に紹介したり、取り上げて教材化したりするなど 通知票による励まし

- 評価を生かした授業改善への取り組み
- ア 評価規準の見直し
 - 具体性はあるか
 - 基礎・基本，学習活動，教材との整合性はあるか
 - イ 単元ごと・題材ごとの評価の推進
 - レディネス調査の実施と単元後の比較
 - 評価補助簿の作成
 - ウ 自己評価の充実
 - 本校における自己評価のねらい
 - 自己教育力の育成（自己理解力，選択能力，課題設定能力）
 - 次の指導に生かす（個々の必要感，成就感の把握）
 - 留意していること
 - 学習計画と自己評価が一体となった自己評価カードを作成する。
 - 自己評価の観点と教師の評価規準との整合性を吟味する。
 - 具体的な行動で客観的な自己評価ができる項目づくりをする。
- 【例】国語科 1年「古典と出会う」第4時の自己評価カードより
『音読・暗唱ステップカード』

チェック項目	プレチェック	第1チェック	第2チェック
漢字が全部読める			
歴史的仮名遣いがスムーズに全部読める			
言葉と言葉の切れ目が分かる			
言葉のイントネーションが分かる			
リズムよくすらすら音読できる			
虫食いシート を使って部分的に暗唱できる	/	/	
虫食いシート を使って部分的に暗唱できる	/	/	
何の手も借りずに暗唱することができる	/	/	

(1単位時間の中で段階的に自己評価 つまずきの種類に応じた学習を)

(3) 研究の成果と課題

成果と考えられること

- ア 評価を生かした個に応じた教材開発，習熟度別学習，少人数学習等によるもの
と考えられる，基礎・基本の定着度の向上

【例】秋田県中学校学習状況調査結果より（各教科平均通過率の合計による県との比較）

平成15年度2年生	H14（4教科計）	+3.9ポイント	H15（5教科計）	+7.9ポイント
平成15年度3年生	H14（5教科計）	-3.6ポイント	H15（5教科計）	+1.5ポイント

(調査実施教科：1年 国語，社会，数学，理科，2・3年 国語，社会，数学，理科，英語)

イ 授業改善，自己評価の継続によるものと考えられる，意欲や自己教育力の向上

【例】生徒による学校評価より（質問に「はい」と答えた生徒の割合；3年生）

学習するとき，何をどのように学習すれば学習成果が上がるか分かってきた	H14 <input type="checkbox"/> 53%	H15 <input checked="" type="checkbox"/> 66%
自分に適した学習の仕方での学習に取り組めるようになってきた	H14 <input type="checkbox"/> 64%	H15 <input checked="" type="checkbox"/> 71%
困難に直面しても問題解決に向けて根気強く取り組む姿勢が身に付いてきた	H14 <input type="checkbox"/> 65%	H15 <input checked="" type="checkbox"/> 82%
学習結果を自分で反省して，次の学習に意欲的に取り組むようにしている	H14 <input type="checkbox"/> 66%	H15 <input checked="" type="checkbox"/> 74%

課題

ア 授業のねらいを実現している「生徒の姿」の具体化と焦点化

イ 生徒の課題設定能力のさらなる向上

ウ 生徒同士の練り合い，高め合いをより大切にしたい授業の工夫

エ 各教科「個に応じる指導のための具体策」のさらなる具現化

オ 習熟度別学習，少人数学習，T.T等の年間指導計画への明確な位置付け

(4) 研究成果の普及の方策

中間公開研究会

- ・平成15年10月10日 本校会場
- ・9教科の授業提示と分科会及び全体会
- ・県内小・中・高等学校より多数参加
- 学力向上フロンティア事業講演会を公開の形で開催
- ・平成16年1月9日 六郷町総合体育館アスパル
- ・東京学芸大学 児島邦宏教授の講演「確かな学力をはぐくむ」
- ・郡内外から約400人参加
- 平成15年度 県南地区「確かな学力」向上推進協議会での実践発表
- ・平成16年1月21日 秋田ふるさと村
- ・ワークショップによる提案と質疑応答
- ・県南各小・中学校の校長，教頭，教務主任，研究主任より代表者参加
- 研究同人との共同研究
- ・校内授業研究会・校内研修会等を通して共同研究
- ホームページの開設
- ・現在，加筆・修正，整備中（<http://www.obako.or.jp/rokugot1>）
- 平成17年度公開研究会
- ・平成17年10月に予定

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上

【指導体制】 少人数指導 T.Tによる指導
 その他

【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント（都道府県教育委員会記入）】

児童生徒の学力の評価を生かした指導改善として，本校では，評価規準をもとにした授業づくりを他校より研究同人を募り，共同で研究しており，評価規準の作成，評価方法の工夫改善に役立っているとともに，このことが成果の普及にもなっている。

また，本県が実施している学習状況調査や自校で作成したアンケートを用いて，自校の取り組みの成果と課題を経年比較するなどして客観的に把握しようとしている。